

兵庫県下のジオ資源を活かした地域づくり Regional revitalization utilized geo-resource in the Hyogo Prefecture

先山 徹^{1*}

Tohru Sakiyama^{1*}

¹ 兵庫県立人と自然の博物館

¹Museum of Nature and Human Activities

兵庫県は太平洋・瀬戸内海・日本海に面し、西南日本内帯のほとんどの地質体が分布する。近年、各地でそれらの地質を活かした地域づくりの試みが進められつつある。その代表的なものが山陰海岸ジオパークであり、ここでは地質や地形などの地域資源を保護・保全しながら教育や観光に活用しようとされている。一方、ジオパーク以外の地域でもそれに近い活動は存在し、それらの根底にあるのは大地の成り立ちと暮らしとのかかわりの理解である。ここではそれらの実例をいくつか紹介し、ジオパークにおける地域資源をマネジメントするための一助とする。

(1) 六甲山地

六甲山地は約100万年前以降の断層運動により、急速に隆起した山塊である。その山麓には神戸・西宮・芦屋・尼崎・宝塚といった大都市が存在する。断層運動とそれによる急斜面、風化しやすい花崗岩の存在はこれまで阪神淡路大震災や阪神大水害などの災害をもたらした。その一方で、それらは神戸港の発展や水車産業など街の発展を促し、地域の文化を形成し、大都市を育ててきたが、近年は六甲山頂付近での過疎化が深刻化してきている。この地域では、多くのNPOや自然愛好家グループが存在し、花崗岩石材や山地の形成と街とのかかわりの理解を含め、ハイキング客などに六甲山の自然や歴史を知ってもらおう活動が進められている。

(2) 竜山石

高砂市には採石場が多くみられ、通称「竜山石」と呼ばれている白亜紀の凝灰岩類が採石されている。これは古墳時代の石棺に始まり、現在まで営業が続けられている「採石遺跡」である。ここでは、この石材を中心にした地域づくりを進めるため、石材利用の悉皆調査や新たな商品化などがなされている。

(3) 生野鉱山と銀の馬車道

生野鉱山はかつて銀山として栄えたふるくからの鉱山であるが、1973年に閉山した。ここでは明治時代に生野鉱山から姫路の港まで約49kmの馬車専用の道路が作られた。現在そのルートを「銀の馬車道」と称し、往時の名残を示す道路跡や建造物をたどるツアーやイベントが展開されている。生野町では国の重要文化的景観の選定を目指している。

(4) 丹波の恐竜を活かしたまちづくり

2006年に丹波市で前期白亜紀の篠山層群から恐竜が見つかった以降、相次いで恐竜のほかほ乳類・は虫類・両生類化石が多く発見され、地域は全国に知られる化石産地となった。それにもなって地域では恐竜を活かした街づくりを推進するグループが立ち上がり、発掘を進めている人と自然の博物館などと連携して活動している。恐竜の発掘体験会や、発掘現場を見るための工夫、シンポジウムの開催など、活動は多様である。

このように、ジオ資源を地域づくりにつなげようとする活動は多い。これらの活動の多くは必ずしもジオパークに進展しようとするものではないが、その理念はジオパークと同様である。そして、その根底にあるのは地域をつくるジオ資源が現在の暮らしや歴史・文化に深くかかわっていることへの理解である。博物館はその理解を進展させる役割を担っている。

キーワード: ジオパーク, 地域づくり, ジオ資源, 山陰海岸, 兵庫県

Keywords: Geopark, regional revitalization, geo-resource, San-in Kaigan, Hyogo prefecture